

※本コメントは、複数の部門に対して総括して書かれたものであり、特定の部門に対して書かれたものではありません

コンクールの目的の一つとして、若いピアニストのみなさんにとって教育的な側面がなければならないという事務局の考えに強く賛同します。もちろん、若いピアニストのみなさんの演奏を直接聞くことができない状況において、十分に責任をもって自分の印象やアドバイスをお伝えすることは非常に難しく、ほとんど不可能に近いことです。ですから、今回はショパン in ASIA の全ての部門において当てはまるであろう一般的な事柄について私の考えを述べさせて頂きたいと思います。

今回審査をする中で、芸術的な個性が足りていない、あるいはまったく感じられないという印象を受けた演奏がいくつかありました。一方で、全ての音を正確に弾くことや、先生に言われたことを忠実に守ることに注力しすぎて感じる演奏もありました。残念ながら、自由に柔軟性があり、想像力に溢れる演奏はそれほど多くはありませんでした。正確ではあるものの、楽譜に書かれていることが機械的に再現されているだけだったり、律動的でメトロノームのようなテンポの演奏もありました。このような弾き方や音楽の理解の仕方では、若いピアニストの芸術的な個性、そして音楽的な想像力や音楽に対する深い理解力を伸ばすことができません。

日々の練習の仕方を見直してみましょ。メトロノームは重要な指針です（ですが、あくまでも指針にすぎないのです）。しかし、もしコンサートやレコーディングで、語るようなフレーズの代わりに、メトロノームの音が感じられたり聞こえてきたとしたら、それは完全な間違いです！楽譜に書かれている全ての音、休符、アクセントが聞こえてきたとしても、それらが曲を語るうえでどのような役割を担っているのかが理解されていないのです。そのような機械的な演奏は、特にショパンの作品のように深く語り掛けるような解釈が求められる作品にはそぐいません。

若いピアニストと一言で言っても、年代によってそれぞれの抱える問題は根本的に違うということはもちろん理解しています。しかし、技量のレベルが違うということはさておき、年代に関わらず、自然で創造的で自由な表現や、音楽を楽しんでいる姿が聴こえたり見えたりするとよいと思うのです！特に「自然な表現」ということを強調しておきたいと思います。人工的に外から得たものや、時に音楽の内容への理解の程度を示唆するようなわざとらしく大げさな身振り手振りや動きに基づくものであってはなりません。

もう一つよくある問題として、いわゆる「音楽を表現すること」と「情熱的な演奏」の違いをきちんと理解することが挙げられます。残念ながら、表現というものは速いテンポや強弱に密接に関係していると考えているように思われる若いピアニストの解釈にしばしば出会います！私の意見では、これは最も根本的な音楽における間違いや解釈上の誤解の1つです。音楽的な表現はテンポや強弱によって生み出されるものでなく、演奏者の精神、深い想像力、芸術的な個性から生み出されなければなりません。つまり、テンポや強弱の解釈というのは、単に必然的な想像力の結果でしかありません。

最後に、芸術的な想像力や、それを聴衆に伝えられる能力も大切です。ピアノ演奏におけるこれらの課題を理解するというのが、「よいピアニスト」と「想像力に溢れる素晴らしい芸術家」との違いを生み出します。若いピアニストのみなさんが、そのような音楽の理解や解釈上の問題を探し求め、それらに取り組みられるようお祈り申し上げます！

※本コメントは、複数の部門に対して総括して書かれたものであり、特定の部門に対して書かれたものではありません

「バランス」と「ハーモニー」は美しさの最も重要な要素なので、演奏するには常にこれらを探し求めましょ。若い演奏者はしばしば自分のアイデアを示そうと自由に弾くあまり、表現が大げさになったり、音楽の形式が曖昧になったりしてしまいます。一方、形式的には一見正しいニュートラルな演奏であっても、感情の不足により、聴衆を退屈させてしまうものもあります。若い演奏者の皆さん、これらの要素のバランスを探し求めてください。シンプルな音楽こそ美しく、また聴衆を魅了することのできる音楽なのです。

参加者のみなさん

みなさん、おつかれさまでした。ショパンの様式をよく理解し、円熟したプロフェッショナルな演奏がいくつもありました。私たち皆に言えることですが、上達するために最も重要な要素の1つは、「よいバランスを見つけること」です。例えば、ルバートとシンプルに弾く箇所とのバランス、選曲する際にその曲と各自の技量のバランス、細部へのこだわりと大きなまとまりを捉えるバランス、表情豊かに弾くことと正確なアーティキュレーションや音の質をコントロールすることとのバランスなどです。

これからもショパンの音楽を演奏することに喜びを感じ、新しくレパートリーを増やし、膨大なピアノ作品に隠された様々な情感を聴衆と分かち合っていてください。

動画審査の為、場所や機材を工夫された方が多く、コンクールへの意気込みが感じられ嬉しく思いました。この部門は最上級のグレードなので、演奏の完成度は勿論のこと、それ以上に、人に聞かせる、語り掛ける演奏を心掛けて頂きたいと思いました。

ソロアーティスト部門を聴かせて頂いたが、全部で30分程の曲を堂々と弾きこなしているのには驚かされた。才能の有る方も何人かいて先が楽しみに聴かせて頂いた。動画なので撮り方や回りの環境に左右されてしまうのはしょうがないが、それぞれの方達の持っているものは分かり、楽しみながら聴かせて頂いた。

皆さん各々の想いがこもった演奏は大変聴き応えのあるものでした。音楽というのは正解というものがなく、楽譜からその本質を見抜き表現していく面白さがあります。決して技術的な完璧さを求めるだけでなく空間を感じて音を奏でていきます。ピアノという楽器で歌うことを第一に考えてみて下さい。ショパンがベッリーニに大きな影響を受けたように、楽曲をオペラと捉え、歌手が歌うように、オーケストラが支えるように、また時には指揮者のように、楽譜を読み表現してみたいかたがたでしょうか。歌手の息づかいが間となり空間の遊びをも生むことができるでしょう。総合芸術という視点から演奏してみると一段と皆さんの演奏表現の幅が広がると感じました。

さすがはこのコンクールの最上位部門のファイナルに相応しいハイレベルな演奏ばかりでした。優れたコンサートでショパンの作品を続けて聞いているとある種の夢幻の世界に引き込まれることがあります。今回は賞の有る無しにかかわらず全員がここまで自分のショパンを弾き切ったことを誇りに思ってください。